

英語 全方式共通

(出題内容・形式・配点)

内容	形式	配点	試験時間
I 長文総合問題	マーク	29	80分
II 長文総合問題	マーク	31	
III 会話文	マーク	24	
IV 文法・慣用句	マーク	16	
V 語句選択英文完成	マーク	20	
合計		120	

* 合計点が各学部(専攻等)および各入試方式の科目の配点と異なる場合は、得点換算を行います。

【出題の基本方針】

立命館大学の諸学部において教育を受けるにふさわしい、基本的な英語力を備えた受験者を選抜するために、高等学校卒業段階で到達すべき英語力を公正に測定できる内容で出題することを基本方針とした。

【各設問の方針と内容】(全日程共通)

I 750～850語程度の英文をもとにした、大意把握と内容理解の力を試す問題である。〔1〕は英文の意味・内容に関する問いが英語で提示され、〔2〕は与えられた5つの文が英文の内容と一致するか否か、あるいは英文の内容からだけでは判断できないかを問う、より正確な内容理解を試す問題である。〔3〕は英文を総合的に理解しているか(主旨の理解ができていないか)を問う。

II 750～850語程度の英文の内容理解を試す問題で、細部の正確な理解が要求される。〔1〕は文中の空所に当てはまる語(句)を選ぶ問題である。空所の直前・直後だけでなく、英文全体の話の流れを正確に把握する必要がある。〔2〕は英文の中の代名詞などの語(句)が、何を指しているか、何を意味しているかを、選ぶ問題である。何かを指示する語(句)が具体的に何を意味しているかを意識的に考えながら読むことによって正確な理解ができていないかを試す。

III 二人の対話文をもとにした問題である。対話中の空所を埋めるのにもっとも適当な表現を選択肢から選ぶ形式である。様々な場面で、話の流れを正確に掴みながら話し手の意向や気持ちなどを理解することができるか、また、適切な表現で応答に必要な情報を伝えることができるかを試す。人との関係を円滑にする(挨拶や呼び掛けなど)、相手の行動を促すなど、いろいろな言語の働きをする英語表現に親しんでおく必要がある。

IV 文法事項に関する問題である。空所を埋めることによって英文を完成させる問題である。基本的なものを中心に、動詞、副詞、形容詞、接続詞、前置詞など様々な品詞に関して、適切な英語で表現する力を試す。

V 語彙に関する問題である。〔1〕は英文の空所を埋めるのにもっとも適当な単語を選ぶ形式で、文脈から語を導き出す問題であり、〔2〕は文中の下線部と同じ意味の語を選択する同義語の問題である。教科書に出てくるような基本的な語彙をはじめ、自立した英語使用者に必要な語彙を幅広く身につけておくことが期待される。単に単語の意味を知っているのではなく、その単語が英文の中でどのように使われるか、連語関係などにも注意を払いながら学習しているかが試される。さらに、その単語を他の単語で置き換えることができるかどうかを試されている。一つの単語に対する一段と深い理解が必要となる。

【学習のポイント】

- 文章全体の構成に注意を払いながら、論理の流れを理解しよう。文章の大意を取ることができたら、今度は一つ一つのパラグラフについて、キーワードなどを使って短い語句で示し、何を言っているのかを掴みながら、次のパラグラフに進んでいこう。そうすれば、細かい部分も正確に把握できるし、論理的な流れも正確に掴めるはずである。英文を効率よく、正確に読むためには、日頃から精読と多読をバランスよく行うことが大切である。文章を要約する練習も効果的だろう。
- 会話文や慣用的な表現には、普段からインターネット上にある会話ビデオや映画などを活用して、楽しみながら親しもう。面白い表現などをノートに取って見直すのも役に立つだろう。1週間や1ヶ月毎に最初から見直し、実際に口に出して言うことも大切である。同じ状況に遭遇すれば、自然に言葉が出てくるだろう。
- 語彙習得は言語習得の基礎中の基礎である。CDやDVDのついている単語集やインターネット上にある単語学習プログラムなどから気に入ったものを選び、耳で聞き、同時に口ずさみ、目で確認し、意味を考えながら書くなど、すべての感覚を使って覚えると効果的である。そうすれば、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの力を総合的に伸ばすことにもつながる。文脈の中で覚えることも大切である。文章や会話の中で単語がどのように使われているのかを意識しながら覚えていこう。